

ほのぼの苑だより

題字：藤原 ノヨ 様



一月誕生会

一月の誕生会は、暖かく晴れた二十日の日曜日食堂にて、入苑者の方々とご家族に参加していただき、行われました。

今月の誕生者の方々は全員が女性という事で思い思いのお洒落をしていたいただき、参加していただきました。

誕生会では、紙版画作りを企画し、鶴、亀、干支のねずみの絵柄を刷り上げ、最後の飾り付けを入苑者の皆さん、ご家族の方々と一緒に仕上げていただきました。入苑者の方々は飾り付けのバランスを考え、試行錯誤しながら取り組まれておりました。

出来上がった作品と一緒に記念撮影を行ったり、出来映えを皆さんで比べ合ったり、シエフお手製のイチゴたくさんのケーキを味わいながら、ご家族の皆様と一緒にゆっくりと過ごして頂くことが出来たのではないかと思います。

最後に今年一年も健康に過ごし、来年も一緒に誕生者の皆さんで過ごせたらと話ながら、笑顔で誕生会を締めくくることが出来、充実した誕生会となりました。

(大石 綾子 記)



ほのぼの苑 ちよつとイイ話

「ほのぼの苑 ちよつとイイ話」
は、苑内での感動する話をご紹介します。
するコーナーです。

ちよつとイイ話

～一月の日誌・日記より～

一月二日（水）

ある入苑者の方と、外泊中の出来事を聞く機会がありました。自宅に帰ると親戚の方々が沢山集まっており、昔話に華を咲かせてきたそうです。この方はお粥を食べており、自分の分をわざわざ作ってくれた事をとても喜んでおられました。とても家族愛に満ちた外泊話に新年早々、暖かい気持ちになりました。



一月八日（火）

ある入苑者のお孫さんが、おじいさんと年賀状を作って持ってきてくれました。す。「早く元気になってね。」などとメッセージが書かれています。よく子供より孫が可愛いと言いますが、その方にとってお孫さん達からの年賀状は大切な宝物になって、一番の励ましのメッセージになっているのではないのでしょうか。



一月十六日（水）

本日、ある居室から歌声が聞こえてきました。入苑者同士で歌の本を持ち合い、童謡や演歌など楽しそうに歌っていました。リハビリスタッフが居たわけでもなく、皆さん自主的に行っていたようです。何度かそのような姿を見ることがありますが、皆さん笑顔で歌っており、見ている人みんなが良い気持ちになりました。

一月三十日（水）

久しぶりに送迎の担当に当たった通苑者の方、半年位前には手引き歩行時にふらつきがあり不安定だったのですが、今日の送迎ではいつものまにか片手をつかまえての軽介助だけで、しっかりとした足取りでした。

ご自宅の玄関には、もう使用されなくなった車椅子がぼつんと置かれたままになってしまいました。車椅子で初通苑されてから一年、現在は介助ながら歩行されている通苑者の方を見て、ご本人の努力が着実に成果をあげていることが感じ取れて素直に嬉しさを感じ、またデイケア職員としてやりがいを感じた瞬間でもありました。

一月十四日（日）

先日、通苑者の方の送迎で、ある方の自宅に迎えに行きました。雪も夜のうちに降ったようで、路面は滑りやすい状態となっておりました。その方に「滑るから気を付けてね。」と言いながら、滑った時の事を考え、腕を掴んでいました。すると、ツルツルと滑り、尻餅をついたのは私。その方の手を掴んで離さず、足腰のしっかりした方で「大丈夫かあー。」と声をかけられてしまいました。送迎車に乗っていた方もその様子を見ていたようで、車の中でも大爆笑。帰りの送迎では、「滑るから気をつけよう」と言われたのは私でした。



第二十一回 家族会 議事録

第二十一回 家族会は、平成二十年一月十一日(金)午前十時三十分より、食堂にて『新年を祝う会』の行事と合同で行われました。ほのぼの苑だよりの誌面にて写真を掲載し、行事での雰囲気をお伝えしたいと思います。二月の家族会は、二月一日 午後三時分より食堂にて、『節分 豆まき』の行事と合同で行いました。小林施設長と年男の介護 佐藤広大による豆まきが食堂にて行われました。詳しい内容につきましては、次号のほのぼの苑だよりに掲載致します。三月の家族会は詳細が決まり次第、当苑玄関と掲示板にてお知らせ致します。お忙しい中とは存じますが、是非ご参加下さいませよう、ご協力よろしくお願い申し上げます。



幸福

皆さんは好きな人のどんな姿を見るとときに幸せを感じるでしょうか？一生懸命仕事しているときでしょうか？甘いものを口いっぱい頬張っているときでしょうか？汗を流して運動しているときでしょうか？趣味に没頭しているときでしょうか？私は何と云っても泣いている表情を見るとときです。それも、ケンカをして泣いてしまったとき、つまり私が泣かせてしまった時が良いです。私が何故泣いている姿が好きなのか？それは、感情の昂ぶりが頂点に達し自分の感情が抑えきれなくなったその時、喉から自分の意思とは関係なく溢れ出してくる液体。人は、その液体で言葉や態度で表現できない気持ちを必死に伝えようとしている、そう感じられるからです。そして、溢れてくる涙に顔がグシャグシャになりながらも、必死に自分を平穏に保とうとする表情。その表情は、強さと弱さの両面を実感させ、強烈な色気となつて私の魂をドキッとさせるからです。それを感じたときが私の幸福です。

涙というのはご存知のように、痛いとき、目にこみが入ったとき、たまねぎの皮を剥いたとき、欠伸をしたとき、嬉しいとき、悲しいとき、怒っているとき等、様々な状況で産生されます。この中で、嬉しいとき、悲しいときなど、感情の昂ぶりによつて生じた涙というのは、他の機械的な刺激や生理的な機序によつて産生されるものとは少し意味合いが違います。感情的緊張によつて生じた化学物質を排出するために涙は産生されるといふ説もあります。涙を流した後はなぜか心が軽く、吹っ切れたよ

うな気持ちになるのは、その排出作用により感情が変化するからなのでしょう。その表情を見るためだけに、泣かせてしまいたくなる衝動に駆られる時もあります。そのためケンカばかりしていたら信頼関係が崩れてしまします。実際には行いませんが、皆さんも機会があれば、涙が溢れてくる瞬間をよよく見てみてください。何とも不思議で神聖な印象を受けると思えます。相手を泣かせて幸せと感じるなんて、相対的な加虐性欲者(サディスト)と思われるかも知れませんが、私は真正正銘の被虐性欲者(マソヒスト)です。人間は誰でも被虐・加虐の双方を多少なりとも持ち合わせているんじゃないでしょうかねえ。あれ、私だけですか？

ボツリと言

現在広報委員会では来年度から変更となるホームページ上で公開している日記の記載者に関して検討しています。毎年新入職員が日記の更新を行ってききましたが、どれも介護福祉士によるもので内容が偏つてきているのではないかと思います。その体制を検討することにしました。書く人が変わっても良い物が作れるように頑張っていきたいと思えます。

発行

医療法人 正和会
介護老人保健施設 ほのぼの苑
〒018-1401
秋田県潟上市昭和久保字街道下 92-1
電話 018-877-7115
FAX 018-877-7481
ホームページ
<http://www.seiwakai-akita-no1.or.jp/>
編集責任者 加藤 稔樹
発行責任者 小林 顕